

この通信は、連絡会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行することにしました。
今後も退院促進等連絡会でお配りする予定です。



世田谷区退院促進等連絡会が開催されました！

平成20年7月16日に第1回世田谷区退院促進等連絡会が開催されました。ご案内の期間が短かったにも関わらず、35名もの方が参加してくださいました。ありがとうございました。

この連絡会は、世田谷区精神障害者退院促進支援事業が平成19年度で終了し、東京都事業へ移行になったことを受け、新たに設置されました。今まで退院促進連絡会で培ってきたネットワークを活かし、精神障害者の退院促進という視点にとどまらず、障害を持った方が安心して

7月16日の主な内容

- 本会の趣旨と今後の方向性について
- 事例報告と意見交換
～重複障害者の退院促進支援事例～
- 情報交換
東京都精神障害者退院促進支援事業

地域で住み続けるための基盤整備について考えていくための連絡会です。

“地域移行”をキーワードに、事業所も医療機関も行政もみんなで集まって知恵を出し合っていきましょう。

重複障害者の退院促進支援事例より

報告者：HASIC 進藤氏

7月のメインテーマは、「重複障害者の退院促進」です。進藤氏より車椅子を使用している精神障害の方の退院促進支援の事例報告がありました。

Aさんは、区外の病院に入院し、病院が住所地になっている方で、身体障害者手帳を所持しておりアパートへの退院を希望しています。進藤氏は、平成19年度の終わりごろから支援しています。

病院訪問を重ね、主治医と確認、ご本人の希望を伺い看護師とも打ち合わせをしながら、いよいよアパート探しに入ります。Aさんがどこまで動けて、どこに支援が必要かとも行動する中で見えてきます。

支援していて気づいたこと・課題

①病院が遠方：病院に行くのに2時間以上、物件を見ると1日かかり。移動手段も課題で、金銭的なこともありタクシーではなく、車が必要な場合誰がどのように用意するのか、また外出時の食事やトイレの心配も。

②身体と精神の重複障害：身体障害についての使える制度がよくわからない（今まで精神障害の方の相談を主として受けてきた）、①とも関連するが街中でバリアフリーや身体状況に気をとられていると精神症状のことが後回しになってしまうことも。

③物件：車椅子で利用可能な物件探しの大変さ。

④認定調査：ご本人は病院住所なので、認定調査の実施は、住所地の市か、世田谷区か。

以上4点が課題として挙げられました。

HANDSの横山氏より（横山氏は身体障害の方の地域移行を支援してきた実績があります。）

身体障害者の住宅改修に関する助成制度のことについてアドバイスがありました。また、区内の不動産マップも頭に入っていて利用しやすい不動産情報もあるが、本人には地域で生活するための苦労も少ししてもらいながら、物件探しに付き合い、相談関係をつくっているとの話もありました。

東京都精神障害者退院促進支援事業の進捗状況



東京都事業では、委託を受けた 12 事業所で都内全域を担当することになります。当面は、ゆるやかな区域担当ですすめるようですが、MOTA とサポートセンターきぬたは、近隣区として目黒、渋谷、大田、品川、港に退院する事例も担当することになるようです。また病院担当制という考え方もありますが、明確にはなっていない状況です。

MOTA

協力病院は、引き続き松沢病院と長谷川病院を担当しています。個別支援については、世田谷区事業からの継続対象者 2 名と新規 1 名の 3 名で、うち 1 名が退院しました。

退院した方は、65 歳以上なので介護保険のケアマネージャーに引継ぎ、ホームヘルプ、訪問看護、配食サービスを導入しています。

区事業での退院者 18 名のうち 10 名について継続支援中です。相談支援事業と一緒に支援していますが、危機介入や都事業の広域化のこともあり、地域の基盤づくりの必要性を強く感じています。(宮本氏 玉置氏)

サポートセンターきぬた

個別支援対象者は 18 名で、うち 1 名が退院しました。世田谷区民は 14 名で、19 年度からの継続は、8 名です。

事業課題として感じることは、重複障害者へのフォロー、精神対応可能なヘルパー事業所探しの困難さ、施設もマンパワー不足の中で障害を持ちながらも街中で暮らし続けたい人の退院後の生活支援など。個別支援対象者の中に重複障害の方が 2 名いますが、この方々が住み続けられるということは、障害を持ちながら地域で暮らせることの幅が広がっていく前例になるという思いで、支援しています。(金川氏)

いろいろなお意見をいただきました。

- ☆支援を通し、民生委員などこの連絡会には登場していないが、地域で生活をしていく上での見守りサポートの必要性を実感できました。(病院関係者)
- ☆退院促進事業では、丁寧なかかわりで病院では気がつかない小さな変化を拾ってくれており、ちょっとしたきっかけをどれくらい拾えるかが勝負だと思っています。次の課題は重度障害者への支援、次の目標をそこにおく必要があります。(病院関係者)
- ☆セーフティネット事業の対象者も遠方の病院が増えています。5 支所で話し合い年内退院の目標を設定しています。高齢者でも障害者でも難しいケースが出てきていると思うので、ホームヘルプサービスについて、課題や問題点について挙げていくことが必要。(生活保護 CW)
- ☆遠方で長期入院の方は、現在の世田谷区のイメージがもてなくなっている人が多い。話だけでなく、写真などで身近に感じられるような資料があるといいと思います。(病院関係者)
- ☆MOTA と一緒に支援している事例では、退院に向けカンファレンスをしています。既存のサービスの谷間で悩んでいます。みんなで話し合いながら不足のところを補い作っていく必要があると思っています。(保健師)

今後の予定

支援が長期にわたる事例や高齢で介護保険も活用する事例など取り上げていく予定です。日程は次のとおり。時間はいずれも午後 2 時からです。

- ①平成 20 年 11 月 19 日 (セミナールーム B)
- ②平成 21 年 1 月 21 日 (場所未定)
- ③平成 21 年 3 月 18 日 (セミナールーム A)

編集・発行

世田谷保健所
健康推進課
精神保健担当

電話 5432-2449 Fax 5432-3022

